

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	1
1. 教育学部、教育学研究科	3
2. 医学部、医学系研究科、高エネルギー医学研究センター、子どものこころの発達研究センター	6
3. 工学部、工学研究科、産学官連携本部、附属国際原子力工学研究所、遠赤外領域開発研究センター、繊維・マテリアル研究センター	9
4. 国際地域学部	12
5. 福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科	14

注) 現況分析結果の「優れた点」及び「特色ある点」の記載は、必要最小限の書式等の統一を除き、法人から提出された現況調査表の記載を抽出したものです。

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況		研究成果の状況	
	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
教育学部、教育学研究科	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
医学部、医学系研究科、高エネルギー医学研究センター、子どものこころの発達研究センター	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
工学部、工学研究科、産学官連携本部、附属国際原子力工学研究所、遠赤外領域開発研究センター、繊維・マテリアル研究センター	【3】	高い質にある	【2】	相応の質にある
国際地域学部	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある
福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学 連合教職開発研究科	【2】	相応の質にある	【2】	相応の質にある

1. 教育学部、教育学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 4)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 5)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

平成 28 年以降に支援経費として配分された学長裁量経費により、論文 11 報、学会発表 8 件という業績を上げている。また、現場実践 6 割タスクフォースを設置し、公募による課題への予算措置等の支援を実施した結果、7 割以上の教員が学校現場と連携した教育研究活動を実施している。さらに、文理を問わず地域人材育成支援事業を継続的に推進しているほか、国際共同研究も複数実施している。

〔優れた点〕

- 平成 28 年以降、学長裁量経費として、コアサイエンスティーチャー（CST）活動支援経費・現場実践推進のための経費・国際共同研究スタート支援経費を、それぞれ 2 件・4 件・2 件配分されており、論文 11 編、学会発表 8 件という業績を上げている。

〔特色ある点〕

- 現場タスク 6 割の活動 a. 中期計画「知識基盤社会において求められる主体的・協働的な学びを中心とする学校を実現する力を持った教師の育成」を進めるため、実践的活動に関わる教員の比率を 60%以上確保し、地域の学校教育における実践的指導力の更なる向上に資するように、「現場実践 6 割タスクフォース」を平成 28 年に設置した。 b. タスクフォース主導による選抜で 10 件、領域内公募で 11 件の課題に予算措置を伴う支援を実施し、その結果、第 3 期中期目標期間中には 75%を超える教員が学校現場と連携した教育研究活動に携わる状況が維持されている。
- 地域や学校現場における実践や教員研修等に関する研究の場として、CST 活動があり、平成 28 年以降、14 名の受講生が CST 養成プログラムを修了している。毎年開催される授業公開・研究会、実験講習会、その他の理科啓発事業、福井 CST 公開セミナー、福井 CST シンポジウムには多くの CST 教員および CST 受講生が参加し、議論や情報交換を行うことで、各自が理科教員としての質の向上に努めている。平成 28 年以降の現職 CST 教員による科研費等の外部資金採択数は 4 件であった。
- アフリカ圏やアジア圏を対象として、学校を拠点とし、効果的に「省察」を取り入れた現職教員研修の仕組みの構築を進めた。

福井県教育委員会と連携・協働して教員研修体型の構築や学校を拠点とした教師の専門職学習コミュニティの基盤を作る取り組みが行われた。また、その他にも文理問わず様々な地域人材育成支援プログラムが進められた。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、2件、2件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

福井大学 医学部、医学系研究科、
高エネルギー医学研究センター、
子どもこのころの発達研究センター

**2. 医学部、医学系研究科、
高エネルギー医学研究センター、
子どもこのころの発達研究センター**

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況	7)
(分析項目Ⅱ 研究成果の状況	8)

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

高エネルギー医学研究センターを中心に学内横断的な共同研究を推進し、第3期中期目標期間の共同研究数は年平均 15.5 件であり、第2期中期目標期間よりも増えている。また、画像診断支援のための類似症例検索技術や Deep learning を用いた肺疾患の類似症例検索技術の改良等の画像医学研究等、特色ある研究に取り組み、医学部の各講座、附属病院の診療科、工学部との間で合計 10 件の共同研究を推進しており、第2期中期目標期間の2倍以上に共同研究が増加している。

〔優れた点〕

- 第2期中期目標期間に引続き、高エネルギー医学研究センターを中心に、分子イメージングによる基礎研究と、機能的 MRI を応用した臨床的な画像医学研究を、医学科、看護学科、工学部、子どものこころの発達研究センターの教員が参加し学内横断的な共同研究として推進している。第3期中期目標期間の共同研究数は4年間で62件（年平均15.5件）あり、第2期中期目標期間（6年間で42件、年平均7件）を大きく上回っている。また子どものこころの発達研究についての国際・国内共同研究も推進している。
- 第3期において医学部の各講座、附属病院の診療科、工学部との間で合計10件の共同研究を推進し、第2期中期目標期間の4件に比べ2倍以上に増加した。画像診断支援のための類似症例検索技術や Deep learning を用いた肺疾患の類似症例検索技術の改良等の画像医学研究及び地域医療・高齢者医療の推進に有用な着衣型生体計測装置を用いた研究開発等、特色ある研究に取り組んでいる。

〔特色ある点〕

- 福井県高浜町を舞台に、ソーシャル・キャピタル（地域のつながり・交流）の醸成に向けた地域社会参加型研究を推進し、「健康のまちづくりモデル」を全国に先駆けて提唱した。その成果は「第1回上手な医療のかかり方アワード」厚生労働省医政局長賞を受賞するなど高く評価された。
- マルトリートメント予防のための分子生物学・脳画像研究の研究成果の一部はNHK「プロフェッショナル 仕事の流儀：傷ついた親子に幸せを〜小児神経科医・友田明美」（平成30年11月15日放送）や書籍「子どもの脳を傷つける親

福井大学 医学部、医学系研究科、
高エネルギー医学研究センター、
子どもこころの発達研究センター

たち」（平成 29 年 8 月発行、NHK 出版新書）、「親の脳を癒やせば子どもの脳は変わる」（令和元年 11 月発行、同）等により福井大学の教育研究の成果や知見を社会に還元した。また、改正児童虐待防止法に「家庭での子どもへの体罰・暴力の法的禁止」を盛り込む立法化実現（令和元年立法化 令和 2 年 4 月施行）に貢献した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、13 件、10 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

**3. 工学部、工学研究科、産学官連携本部、
附属国際原子力工学研究所、
遠赤外領域開発研究センター、
繊維・マテリアル研究センター**

(分析項目 I 研究活動の状況 10)

(分析項目 II 研究成果の状況 11)

分析項目 I 研究活動の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

出向 URA が持つ地域ネットワークを活用するとともに実践的技術相談等を実施する T-URA や産学官コンシェルジュを置いて活発なコーディネート活動を展開するなど、地域連携研究活動を推進している。

〔優れた点〕

- 地元銀行からの出向 URA が持つ地域ネットワークを活用するとともに実践的技術相談等を実施する T-URA (T Technology、Training、Transfer を意味する) や産学官コンシェルジュを置いて活発なコーディネート活動を展開した。その結果、第3期中期目標期間は4年目終了時までには874件の共同研究契約を締結し、平成24年度から平成27年度(626件)の約1.4倍に達した。

〔特色ある点〕

- 産学官連携本部では人工衛星の開発に携わる特命准教授を雇用し、福井県と覚書を締結し協力して超小型人工衛星の製造・開発・運用を進め(中日新聞令和2年2月20日報道)、また、福井県とのクロスポジションで炭素繊維複合材料に関する研究を担う特命教員1名を配置し、地域企業の技術と融合する共同研究を推進した。
- 素粒子及び原子核物理学において、米国フェルミ国立加速器研究所やテキサス A&M 大学(米国)等との大規模な国際共同研究に取組み、トップクォークの発見、宇宙暗黒物質や宇宙背景ニュートリノなどの次世代測定装置の開発等の成果を挙げ、教員が欧州物理学会令和元年高エネルギー素粒子物理学賞を受賞した。
- 国際協力機構草の根技術協力事業「バングラデシュ国のパイガサ地域の水・保健環境改善プロジェクト」を現地 NGO とクルナ科学技術大学(バングラデシュ)、並びに福井大学医学部と共同で推進し、飲料水確保とその利用による健康改善を実現した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、10件、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

4. 国際地域学部

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況	13)
(分析項目Ⅱ 研究成果の状況	13)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 学部設置の平成 28 年度以降、地域連携による研究活動について積極的に取り組んでおり、地方自治体等の連携による共同研究として、平成 28 年度に永平寺町の教育等の国際化に関する「特色ある教育についての共同研究」を実施した。また、令和元年度に坂井市及び地元民間企業と「西長田駅再開発事業に関する共同研究」を実施した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績が、2 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。

5. 福井大学・奈良女子大学・岐阜聖徳学園大学連合教職開発研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 …………… 15)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 …………… 15)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔優れた点〕

- 「学校拠点方式」による協働的な実践研究を行う体制を構築しており、附属学校園・拠点校・連携校数が、平成 28 年度の 39 校から令和元年度には 89 校に大幅に増加している。

〔特色ある点〕

- エジプト・アラブ共和国高等教育省（エジプト・カイロ）との基本合意書の締結や、マラウイ共和国ナリクレ教員養成大学と大学間協定を締結した。その結果、アフリカや中東における教育の質向上に関する実践的研究として、アフリカにおける理数科教育協力に関する研究や、エジプト・アラブ共和国の教育改革に関する実践的研究が行われた。
- 授業改善に関する実践的・基礎的研究として、拠点校である福井大学教育学部附属義務教育学校が平成 30 年度に文部科学省の研究開発学校に指定され、「『社会創成プロジェクト』による社会に意志をもって生き、自立的な学びができるための資質・能力の研究開発」というテーマで実践研究を進め、日本の新たな実践モデルを示している。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、1 件、1 件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、相応の質にあると判断した。